Annual Report

2022.1-12

2022 年活動報告書

01.　目次 / メッセージ
02.　more trees のビジョン
03.　ネイチャーポジティブとは？ / 森の現状と課題
04.　more trees の森 / 2022 年の実績と成果
05.　多様性のある森づくり

森林プロジェクト実施状況
06.　北海道 足寄町 / 北海道 美幌町
07.　岩手県 住田町 / 奈良県 天川村
08.　鳥取県 智頭町 / 高知県 梼原町
09.　インドネシア 東カリマンタン州

10.　脱炭素社会に向けて / カーボン・オフセットの取り組み

普及啓発事業
11.　講演 / イベント / ワークショップ

ものづくり事業
12.　オリジナルプロダクト / コラボレーションアイテム / 空間

13.　協賛者様一覧
15.　法人概要

メッセージ

近年、生物多様性をはじめとする自然資本に対して注目が高まっています。

2021年10月に中国・昆明で開催された国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）第1部で発表された「昆明宣言」では、遅くても2030年までに生物多様性の損失を逆転させ回復させる内容が盛り込まれました。
さらに、2022年12月にカナダ・モントリオールで開催されたCOP15 第2部では、2030年までに陸域と海域の30%を保全する「30by30」が目標に盛り込まれました。
これは2010年のCOP10における「愛知目標」で設定された陸域17%、海域10%という目標から、大幅に上方修正された形です。

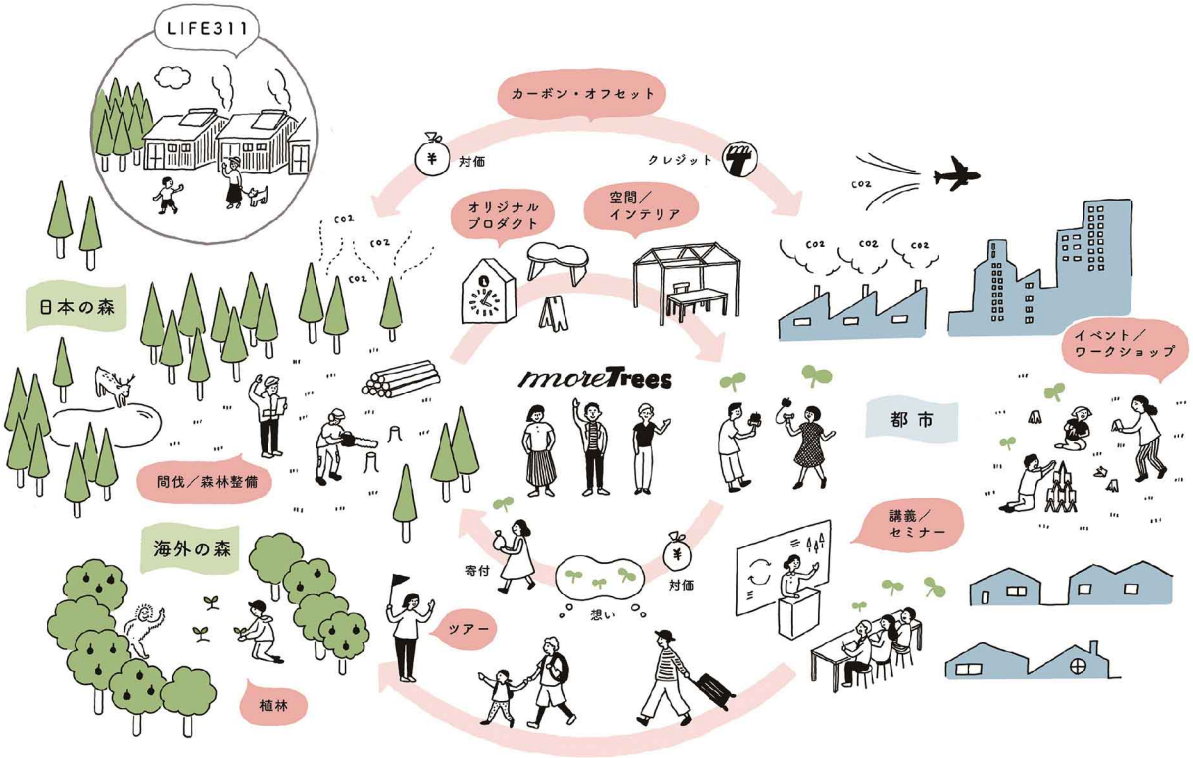
こうした動きに代表されるように、気候変動のみならず生物多様性の損失や自然資本の劣化が私たちの暮らしを脅かし、経済活動にマイナスの影響をもたらすことへの危機感が世界的に高まっています。
これからはいかなる業種であっても、気候変動対策や自然資本の重要性を無視した経済活動は立ち行かなくなることになります。
今後、カーボンニュートラル（脱炭素）とともに、生物多様性の保全や自然資本への取り組みがますます重要視されてくるでしょう。

森林はCO2の吸収・固定をはじめ、生物多様性や水資源、土壌など多くの領域を網羅します。
裏を返すと、森林が減少・劣化するとこれらの機能がすべて損なわれてしまいます。
地球レベルで森林面積が減少している中、自然資本の根幹を担う森林への関心はますます高まってくると思われます。

引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

more trees事務局長　水谷伸吉

森と人がずっとともに生きられる社会を目指して



more treesは
「都市と森をつなぐ」森林保全団体です。

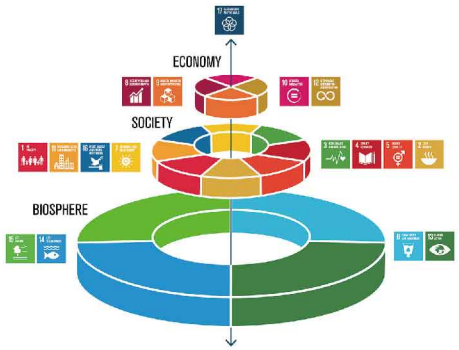
一般社団法人more trees（モア・トゥリーズ）は、
音楽家 坂本龍一によって
2007年に設立された森林保全団体です。
いま世界は、気候変動や生物多様性の危機など、
森林の減少がその一因と言える
さまざまな問題を抱えています。
状況は深刻で、解決はおろか、
改善も容易ではありません。
それでも、目の前にあるできることから取り組む
という姿勢を、私たちは大切にします。

more treesは、森林が持つさまざまな機能の
回復を目指した保全活動のほか、
森からは製品・サービス・情報・体験などを
都市に届けること、都市からは森の恵みの対価を
受け止めた人々の思いや
経済的な対価を森に還すことで、
「都市と森をつなぐ」活動を行っています。
この循環を生み出し高めていくことが、
私たちの考える“森づくり”です。

ネイチャー・ポジティブとは？

ネイチャー・ポジティブ（Nature Positive）とは、地球規模で生物多様性の損失に歯止めをかけ、自然資本をむしろプラスに増やしていくことを意味します。
自然資本とは、森林、土壌、水、大気、生物資源など、自然によって形成される資本（ストック）のことを指しますが、こうした自然資本がもたらす生態系サービスに支えられた経済活動による価値創造は年間44兆米ドルと言われており、これは世界の総GDPの半分以上にあたります。
しかしながら、生物多様性は1970年から2016年の間に平均68%減少しており、陸地の75%は改変され、海洋の66%は累積的な影響下にあり、湿地の85%が消失したとされています。
近年、生物多様性の損失や自然資本の劣化が私たちの暮らしを脅かし、企業の事業継続性を損なうリスク、あるいは新たなビジネスを生み出す機会として認識されつつあり、国際的には、生物多様性を脱炭素と一体的に取り組むべきビジネス課題と位置づけて事業活動に組み込んでいく動きが加速しています。

SDGs における自然資本



出典：Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University

SDGs においてもネイチャー・ポジティブは重要な位置づけにあります。SDGsの17の目標は「経済圏」「社会圏」「生物圏」の３層に分類でき、経済は社会に、社会は生物圏すなわち自然資本に支えられて成り立つことが示されています。
ネイチャー・ポジティブの実現によって社会・経済の基盤である自然資本を回復させることが、SDGsを達成し持続可能な社会を構築する上で重要な役割を果たすと言えます。

世界の森

世界では、1秒間にテニスコート12面分もの森が消失しています。特に問題となっているのが、豊かな生物多様性を支える熱帯雨林などの減少です。木材の利用を目的とした商業伐採や、農地（プランテーション）や牧草地への転換を目的とした野焼きによる開墾が引き起こす森林火災など、人間の経済活動が熱帯雨林減少の大きな原因となっています。また、地球規模での森林減少は、気候変動に大きな影響を与えています。

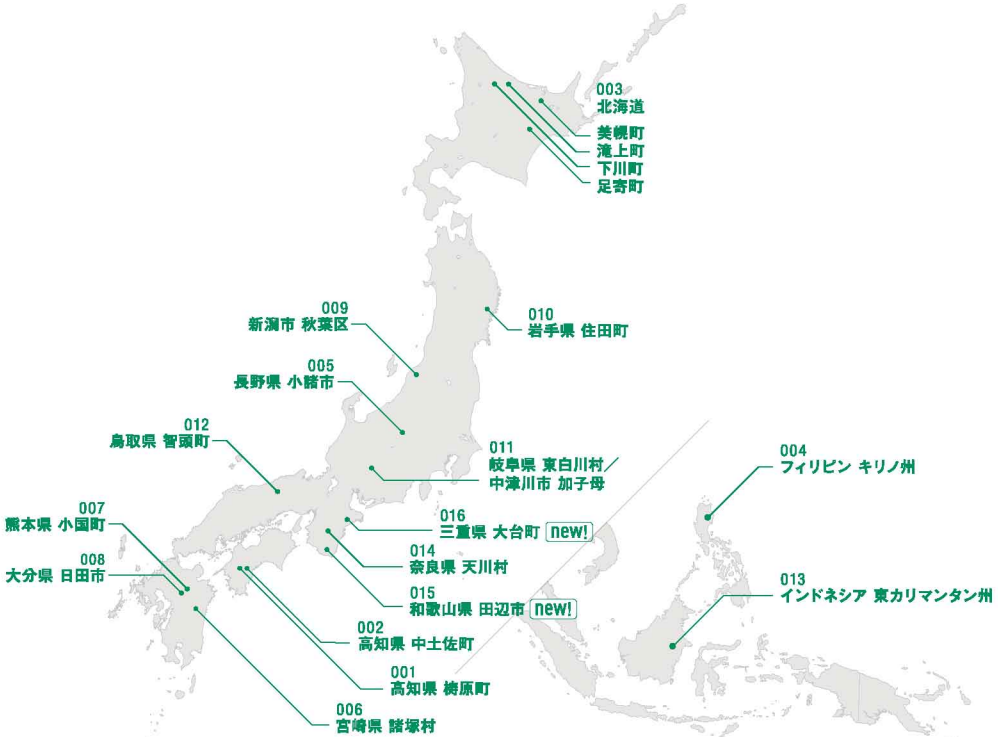
森林火災（インドネシア）

日本の森

日本は国土の約7割が森林に覆われる森林大国です。戦後の木材不足により、国によってスギやヒノキなどの植林が推進されたことで、人工林を中心にこの100年間で日本の森林蓄積量は増加しました。しかし、近年は木材需要の減少にともなう木材価格の下落や林業従事者の減少により、この先手入れがされないであろう人工林が増えています。また、日本には主要な樹木が500種類以上あると言われていますが、スギとヒノキの2種類のみで人工林の約7割を占めるまでになっており、森林の多様性が失われている状態です。

手入れが進んでいない人工林

more treesの森



私たちは、国内18か所（14地域）、海外2か所に「more treesの森」を展開し、森の保全活動を行っています。森の保全は、ただ木を伐らないこと、木を植えることだけでは実現できません。地域によってその方法はさまざまであり、活動の主役となるのはその土地に暮らす人々です。私たちは、地域の人々がもつ林業の技術や知識を最大限に活かし、さらに専門家や有識者の方々のアドバイスをいただくことで、その土地ならではの森林保全につなげられると考えています。そして、その土地に暮らす人々の生活が経済的にも適切に維持されるよう、方法を一緒に考え、実践のサポートをしています。

2022年の実績と成果

2022年も森林保全活動をはじめ、セミナーやイベント、ワークショップなど都市と森をつなぐさまざまな活動を実施いたしました。

植林した本数

28,970 本

植林した面積

177,100 ㎡

除伐、間伐した面積

15,000 ㎡

講演の延べ聴衆
※オンライン含む

約2,400 人

森林クレジットによってカーボン・オフセットが実現した量

2,011 t

植樹イベントの参加人数

255 人

シンポジウムや講義に登壇した回数

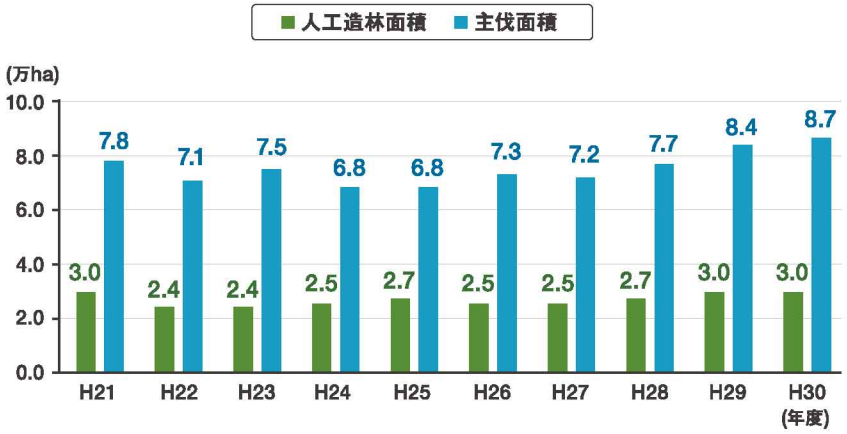
28 回

木育ワークショップを体験した人数

251 人

森の多様性

日本にはもともと主要な樹木が500種類以上あるといわれていますが、戦後の木材需要に応えるためにスギやヒノキを植林した結果、森林蓄積量は増えたものの、森の多様性が失われているのが現状です。
こうした人工林の多くは林齢が50年程度になり、収穫可能な時期を迎えていることから、全国的に人工林の皆伐（一定の面積の木を全て伐採する方法）が増加傾向にあります。一方で、伐採跡地に対して再び植林するための費用が捻出できない、あるいは林業の収益性が将来的に見込めないなどの理由で皆伐後に放棄されたままの未植栽地も増えています。こうした再造林放棄地は皆伐地全体の6～7割ともいわれ、未植栽の状態で放置することが土砂災害などの要因の一つになっているという指摘もあります。
more treesでは、伐採跡地や再造林放棄地、今後も手入れされる見込みがない森林等に対し、単一樹種のみならず、その土地に適した様々な樹種で構成される森林への転換を目指し、全国各地で「多様性のある森づくり」に取り組んでいます。

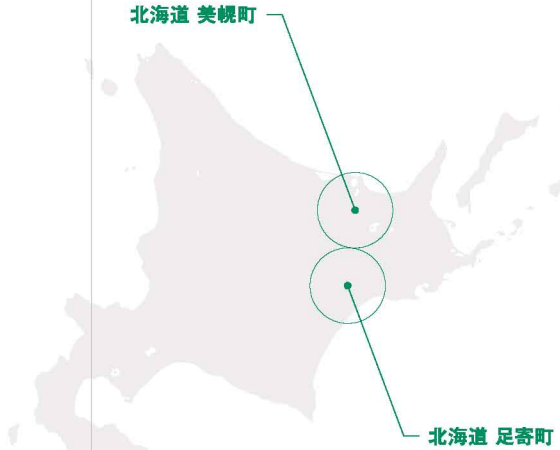


出典：「多様で健全な森林への誘導」林野庁（2020年10月）
※ 民有林の主伐面積は推定値

企業の森

「企業の森」とは、more treesが各地で進める「多様性のある森づくり」への法人参加型プログラムです。継続的に森づくりへご協賛いただいている企業・団体は、対象地域に任意で看板を設置いただいているほか、ツアーや社員研修、植樹体験イベントの開催、地域産材を活用したノベルティや店舗什器の製作など、さまざまな方法で「企業の森」をご活用いただいています。私たちは、脱炭素やネイチャー・ポジティブに取り組む企業とのパートナーシップの強化にも取り組んでいます。

地域と協働で進める「多様性のある森づくり」の取り組みは徐々に全国に広がっています。その中でも今年、特に動きがあったプロジェクトについてご報告します。



project 003

北海道 足寄町

足寄町は十勝の東北部に位置し、「日本一面積が広い町」として知られています。北海道三大秘湖の一つに数えられるオンネトーや阿寒湖の西にそびえる活火山の雌阿寒岳など、雄大な大自然も魅力です。

2022年より第一生命保険株式会社様と協働で、里見が丘地区での森づくりを開始しました。6月に開催した植樹イベントでは、同社や足寄町のご招待により約70名の方々にご参加いただき、1ヘクタールの土地に550本のミズナラの苗木を植林しました。

また、北海道大学教授の吉田俊也先生と九州大学准教授の内海泰弘先生を講師としてお招きし、「多様性のある森づくり」の一環として勉強会を開催しました。北海道における広葉樹施業や研究事例についてご紹介いただいたほか、現場視察では植林地の生育調査も併せて実施しました。植林した広葉樹の苗木は順調に生育しており、その周辺には自然の力で発芽し、生長した樹種も数多く確認することができました。吉田先生からは現在の状況を踏まえ、今後も順調な生長が見込めるとご評価いただきました。

第一生命の森（第一生命保険株式会社様）

「多様性のある森づくり」勉強会

project 003

北海道 美幌町

美幌町は北海道東部に位置し、阿寒摩周国立公園内にある美幌峠をはじめ多くの観光客が訪れる自然豊かな町です。

登栄地区では、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様と協働で森づくりに取り組んでおり、20ヘクタールもの大面積皆伐が行われた土地の再生を目指して植林を進めています。2022年には3.5ヘクタールの土地にシラカンバ（白樺）、ミズナラ、ヤチダモの苗木、合計7,000本を植林し、本地区にて予定していた全面積の15.5ヘクタールに累計25,456本の植林が完了しました。また日並地区では、株式会社ロイヤリティ マーケティング様、株式会社Ｉ－ｎｅ様と協働で森づくりを進めており、2022年にはあわせて4ヘクタールの土地にミズナラ、シラカンバの苗木、合計8,000本を植林しました。

さらに、広葉樹の苗木の地産地消や安定供給を目指し、美幌町立旭小学校と協働で育苗の取り組みを開始しました。10月には町内で種採りイベントを実施し、集めた広葉樹の種を旭小学校の1年生のみなさんにお届けしました。育てていただいた苗木は、「多様性のある森づくり」のため、将来的に同町の森に植えられる予定です。

ヤマハンノキ

種採りイベント

project 010

岩手県 住田町

住田町は岩手県の東南部に位置し、清流・気仙川の源流を有する内陸の町です。豊富な森林資源と木材加工施設があることから「森林・林業 日本一の町」を目指しています。

上有住地区では、株式会社ユナイテッドアローズ様、三井住友カード株式会社様と協働で森づくりを進めています。2022年は0.63ヘクタールの土地にウリハダカエデ、コナラ、オオヤマザクラ、カツラ、イタヤカエデ、ハルニレの苗木、合計720本を植林しました。
植林地は元々カラマツの造林地だった土地で、カラマツの皆伐後は人の背丈を超えるほどのササが繁茂していました。そこで、刈り取った後のササを地面に敷き詰めるマルチングの対策や、通常より大きく育てた大苗の使用により、植林した苗木が元気に育つための工夫を施しています。

植林後には獣害対策として苗木1本ごとにツリーシェルターを設置していましたが、野生動物による食害や雪害、風害による被害が出ていることから、植林地内にて小規模なエリアを柵で囲う「パッチディフェンス」の手法を試験的に導入し始めています。

植林地

ササの刈り払い作業

project 014

奈良県 天川村

天川村は紀伊半島の中心部に位置し、村の面積の4分の1が吉野熊野国立公園に指定されています。村土の97%が森林に覆われ、古くから林業が村の主要産業の一つでしたが、価格低迷が続くスギ・ヒノキの木材生産に変わる方法として、同村と縁の深いキハダに着目した「天川村 キハダの森プロジェクト」を開始しました。1,300年前からこの地域に伝わる胃腸薬「陀羅尼助丸」の原料となるキハダを中心に、将来的に複数の広葉樹で構成される「多様性のある森」への転換を図ることで、経済と環境の両立を目指しています。

本プロジェクトにご賛同いただいたデッカーズジャパン合同会社様、三井住友カード株式会社様、株式会社三井住友銀行様、株式会社TRACE様の4社と協働で洞川地区において森づくりを進めています。2022年は5ヘクタールの土地にキハダ、ウリハダカエデ、ミズナラ、ミズメ、アカシデの苗木、合計3,140本を植林しました。

さらに同村では、奈良県内で初めてドローンによる資材運搬が実用化されました。植林用の苗木や獣害対策の資材の運搬にドローンを活用することにより、森づくりに伴う作業負担の大幅な軽減につながっています。

キハダの苗木

ドローンによる資材運搬

project 012

鳥取県 智頭町

急峻な中国山脈に囲まれ、鳥取砂丘を育んだ千代川の源流に位置する智頭町は、350年以上の植樹の歴史を持つスギの町です。明治時代中頃から植林・育林の技術が発展し、西日本有数の林業地として名を馳せてきました。

日本ロレアル株式会社 キールズ事業部様と協働で森づくりを進める埴師地区では、既存のスギ人工林を活かしながら針葉樹と広葉樹の混交林を目指しています。2022年には0.58ヘクタールの人工林で通常の間伐よりも多く間引く強度間伐を実施した後、空いた空間にエゴノキ、ケヤキ、イタヤカエデなど8種類の苗木、合計100本（うち20本は補植（植林木が枯れたりして生じた空地に苗木を植えること））を植える樹下植栽を行いました。この手法は、皆伐後の再造林などと比べて環境に与える変化が少ないとされています。またこれまでに植林を行った土地で、雪害によって破損したネット補強等の作業を実施しました。

芦津地区では、2022年よりキャロウェイゴルフ株式会社様と協働で森づくりを開始し、0.17ヘクタールの土地に、ヤマザクラ、トチノキ、ミズナラ、シバグリの苗木、合計510本を植林しました。

間伐作業

キャロウェイの森（キャロウェイゴルフ株式会社様）

project 001

高知県 梼原町

雄大な四国カルストに抱かれ、四万十川の源流部に位置する梼原町は、気象条件が整えば眼下に雲海を望めることから、「雲の上の町」とも呼ばれています。

芹川地区では三井住友カード株式会社様と協働で森づくりを進めています。2022年には0.91ヘクタールの土地に、梼原町の名前の由来とも言われているイスノキ（別名「梼（ユス）の木」）をはじめ、イロハモミジ、ケヤキ、イタヤカエデの苗木、合計2,730本を植林しました。
また、高知大学名誉教授の石川愼吾先生にご指導いただき、これまでに植林を実施した施業地にて、樹高測定や枯死率の調査などを通じた植林木の生育調査を行いました。樹種によっては、ノウサギとみられる野生動物の食害や立ち枯れが目立つものもありましたが、ホオノキやケヤキ、カエデ類の一部は非常に生育状況が良く、下草の中から飛び出るほど樹高が高く生長した樹木もありました。

2022年からは、仲洞地区にて青山商事株式会社様と協働で森づくりを開始し、1.06ヘクタールの土地に、ヒノキ、ヤマザクラ、イロハモミジ、イスノキの苗木、合計1,590本を植林しました。

生育調査

AOYAMAの森（青山商事株式会社様）

project 013

インドネシア 東カリマンタン州

「森の人」オランウータンが暮らす豊かな熱帯雨林

インドネシアの熱帯雨林はアジア最大規模で、その森林面積は地球上に残存する熱帯雨林の約1割を占めます。しかし過去40年にわたる過剰な森林伐採や森林火災などにより、急激に森林消失が進んでいます。その大きな要因の一つが、パームオイルなどの生産を目的とした開墾のための火入れと、その延焼火災です。パームオイルは食用油や洗剤など、私たちの生活に身近な製品の原料に多く使われています。こうした生産物に端を発した火災の発生による森林消失は、日本に暮らす私たちにとっても決して無関係ではありません。

カリマンタン（ボルネオ）島の豊かな生態系を育む熱帯雨林には、インドネシア語で「森の人」を意味するオランウータンなどの絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息していますが、度重なる森林火災等で生息地を奪われているのが現状です。こうした状況の中、more treesは2015年に発生した森林火災跡地等の再生を目指し、オランウータンの保護活動を行う現地の財団とともに、2016年より「オランウータンの森 再生プロジェクト in インドネシア」を開始しました。

コロナ禍の影響で2021年よりインドネシアへの渡航はできていませんが、現地の協力のもとで継続的に植林活動を進めています。2022年は、2.5ヘクタールの土地にオランウータンの餌となる果樹や在来種の苗木、合計1,000本を植林しました。このうち1.5ヘクタール分は、カラーズ株式会社様と協働で森づくりを進めています。また、これまでに植林を実施した8ヘクタール分の育林作業として、植林木周辺の下草刈りや枯死した苗木の植え替えなども行いました。

現地は、コロナ禍や2024年から始まる首都移転などに大きな影響を受けています。引き続き現地と連携して森づくりを進めるとともに、オランウータンや熱帯雨林の現状を伝える取り組みを続けてまいります。

リハビリ中のオランウータン

植林前の準備作業

植林作業

お風呂理論

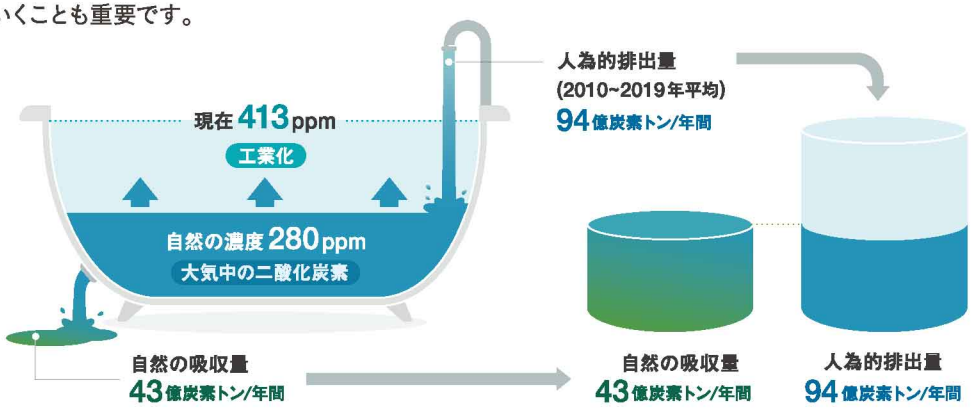
脱炭素（カーボンニュートラル）の達成には、CO2の削減が欠かせません。
地球の大気中にあるCO2をお風呂の水量に例え、その現状や対策についてわかりやすく表現した「お風呂理論」という考え方があります。産業革命以前までは、蛇口から流れる水量（排出量）とお風呂から出ていく排水量（森林、海洋などの自然の吸収量）のバランスが取れていましたが、産業革命以降、蛇口から流れる水量（排出量）の急激な増加によりお風呂の水位（大気中のCO2量）が上がり続けているのが現状です。

水位のバランスを取り戻すには、

① 蛇口を締めること（排出量の削減）
② 排水量を増やすこと（自然による吸収量の増大）

を同時に行うことが重要です。

カーボンクレジットには、省エネにより実現したある一定量（ベースライン）からの削減量を認証する排出削減系と、森林の適切な管理によるCO2吸収の増大量を認証する森林吸収系の2種類に大きく分類されます。
これまでは排出削減系クレジットが注目されがちでしたが、今後は森林を中心とした自然による吸収量を増やしていくことも重要です。



出典：Global Carbon Budget 2020

カーボン・オフセット

企業活動等で排出されたCO2を再生可能エネルギーや森林の吸収によって相殺する、脱炭素社会の構築に向けた取り組みの一つが「カーボン・オフセット」です。more treesは排出されたCO2をmore treesの森が吸収することで相殺する、森林由来クレジットを活用したカーボン・オフセットサービスを提供しています。
2022年は19の企業に合計2,011トンのクレジットをご活用いただきました。

オフセットの対象となる活動（事例紹介）

オフセットの対象となる活動は企業ごとに多種多様ですが、温室効果ガス排出量の算定・報告の国際的な基準である「GHGプロトコル」が策定した「スコープ分類」（サプライチェーンを3つに分類したもの）ごとに事例をご紹介します。

●スコープ1（事業者自らによる直接排出）
・自社工場からのCO2排出量をオフセット

●スコープ2（外部から調達する電力や燃料の使用に伴う排出）
・ホテルの宿泊に伴なうCO2排出量をオフセット

●スコープ3（その他事業者の活動に関連する他社の排出）
・商品の物流及び従業員の通勤・出張に伴うCO2排出量をオフセット

●その他
・自社商品に一定量のクレジットを付与し、販売数に応じてオフセット
・SDGsアクションを促すアプリ内において、ユーザーが行ったアクション数に応じてオフセット
・イベント開催に伴う参加者の移動によるCO2排出量をオフセット

講演／イベント／ワークショップ

日本や世界の森林事情をはじめ、森林や木材の魅力、私たちの暮らしと森とのつながり、社会貢献や地域との協働など、講演やセミナーを通じさまざまな観点から森について伝える活動を続けています。

さらに2022年は、more treesの森がある地域の方々が一堂に会する3年に一度のイベント「more treesトリエンナーレ」を開催しました。

また、木に触れ、森を身近に感じられるようなイベントやワークショップを各地で開催し、子どもたちをはじめ幅広い年代の方にご参加いただいています。

more treesシンポジウム

日経SDGsフォーラム 特別シンポジウム

ARK HILLS CHRISTMAS 2022

セミナー／講演／シンポジウム

2022年11月10～12日
「第4回 more treesトリエンナーレ」/
「more treesシンポジウム ～地域と歩む、多様性のある森づくり～ 」
@奈良県天川村

「more treesシンポジウム」では、自然配植技術協会会長の高田研一氏にご講演いただいたほか、天川村地域林政アドバイザーの杉本和也氏を交えたパネルディスカッションを実施しました。また「多様性のある森づくり」のための集合研修として、自然配植や地域性苗木に関する専門知識を学んだり、天川村の植林施業地や苗木の生産を行う苗畑等の見学を行いました。
3日間の「more treesトリエンナーレ」を通じ、参加者同士の情報交換も活発に行われるなど、地域を超えた交流を深めることができました。

2022年5月9日
「日経SDGsフォーラム 特別シンポジウム」
（主催：株式会社日本経済新聞社/株式会社日経BP）

2022年5月18日
「第26回 森林と市民を結ぶ全国の集い2022」
（主催：公益社団法人国土緑化推進機構）

2022年11月25日
「岐阜県J-クレジット制度活用セミナー」
（主催：岐阜県）

2022年12月5日
亜細亜大学
「インターナショナル・フォーラム」

2022年12月18日
「第10回 木育サミット」
（主催：認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館）

他

イベント／ワークショップ

2022年8月28日
「SPOLUTION」イスづくりワークショップ
@パークビレッジ南町田

2022年10月15,16日
「RETREAT Festa 」
植樹体験ワークショップ・つみきのプレイエリア
@八王子みなみ野リトヒルズ

2022年11月18日～ 12月25日
「ARK HILLS CHRISTMAS 2022」
11月5日
苗木づくりワークショップ
@アークヒルズ

2022年11月20日
「第16回 みなと森と水会議」
つみきワークショップ
@エコプラザ

オリジナルプロダクト／コラボレーションアイテム／空間

日本は豊かな森林資源に恵まれていますが、海外からの輸入材に押され、木材自給率は約4割ほどにとどまっているのが現状です。

more treesでは間伐などの森林整備とともに国産材の活用を推進し、デザイナーや地域の職人と協働でオリジナルプロダクトの企画・製造・販売を行っています。

また、国産材などの森の恵みを活用したノベルティ、コラボレーションアイテムの企画・開発・製造や、国産材を活用した空間デザインから店舗什器の製作、木材の提供まで、さまざまなシーンで国産材利用のきっかけづくりをサポートしています。

Bien; カウンターテーブル天板

日本ロレアル 造作家具・什器

Innisfree アロマブロック

兵左衛門 箸・箸置き

東京ステーションホテル チャリティオーナメント

コラボレーションアイテム事例

Innisfree
キャンペーンノベルティ（アロマブロック）

skaga
キャンペーンノベルティ（手鏡）

兵左衛門
箸・箸置き

東京ステーションホテル
チャリティオーナメント

AIGLE
キャンペーンノベルティ（カレンダー）

他

空間・什器事例

日本ロレアル
造作家具・什器（オフィス空間）

Bien;
カウンターテーブル天板（ショールーム/ストア）

Ron Herman
クリスマスオブジェ（千駄ヶ谷店 他）

協賛者様一覧

Supporters of More Trees

Have a good Cashless. SMBC 三井住友カード 三井住友カード株式会社	Green Ponta 株式会社ロイヤリティ マーケティング	BOTANIST 株式会社I－ne	john masters organics 株式会社ジョンマスターオーガニックグループ	GeoTechnologies ジオテクノロジーズ株式会社	青山商事株式会社 青山商事株式会社	Afternoon Tea LIVING 株式会社サザビーリーグ（Afternoon Tea LIVING）
		TRACE 株式会社TRACE	Kiehl's SINCE 1851 日本ロレアル株式会社（キールズ）	UNITED ARROWS LTD. 株式会社ユナイテッドアローズ	VENA ENERGY 日本再生可能エネルギー株式会社	Members 株式会社メンバーズ
あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	一生涯のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group 第一生命保険株式会社	SUPERHOTEL 株式会社スーパーホテル	MACCHIA LABEL マキアレイベル 株式会社JIMOS	UGG デッカーズジャパン合同会社	ARAS 石川樹脂工業株式会社	Newport 株式会社ニューポート
		Callaway キャロウェイゴルフ株式会社	三越伊勢丹グループ エムアイ友の会 株式会社エムアイ友の会	NTT docomo 株式会社NTTドコモ	AIGLE 1853 株式会社ラコステジャパン	UNIPRES ユニプレス株式会社
BIOTOP 株式会社ジュン	SMBC 三井住友銀行 株式会社三井住友銀行	COLOURS カラーズ株式会社	innisfree アモーレパシフィックジャパン株式会社	Interior OfficeOne 株式会社 インテリアオフィスワン 株式会社インテリアオフィスワン	CTC Challenging Tomorrow's Changes 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	

株式会社栗原	株式会社ウィファブリック	アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社	株式会社シモジマ	KYNE	株式会社サザビーリーグ（ARTIDA OUD）	株式会社スタンダード	三井住友ファイナンス＆リース株式会社	株式会社サザビーリーグ（agete）	Mother's Industry 株式会社	株式会社菓匠三全
株式会社カズマ	キャボットジャパン株式会社	株式会社スターテック	株式会社センシアコスメティック	株式会社マーションジャパン	株式会社YAMAGIWA	株式会社エフ・ディ・シィ・プロダクツ	株式会社星道	ヤフー株式会社	株式会社IMCF	アイグッズ株式会社
キグナス石油株式会社	ウィルライフ株式会社	株式会社サッポロドラッグストアー	岩槻オルゴゴルフガーデン	株式会社光文社	ビー・エム・ダブリュー株式会社	スピークス株式会社	日本ホテル株式会社	株式会社オリエントコーポレーション	株式会社Asste	イトキン株式会社
シャボン玉石けん株式会社	大昭和紙工産業株式会社	株式会社プライマル								

株式会社コロット｜株式会社3and garden｜株式会社プリプレス・センター｜Red Yellow And Green株式会社｜株式会社たかくら新産業｜株式会社オープンパワー｜株式会社KAMMUI｜株式会社 SEVEN DAYS｜株式会社ジョア｜株式会社中島重久堂｜株式会社ベルモ｜エイベックス・エンタテインメント株式会社｜株式会社ベル・フルール｜YOOL｜TerraCycle Japan合同会社｜近畿日本ツーリスト株式会社｜医療法人社団 湘南太陽会｜株式会社シグナル｜株式会社ミルク｜Nordgreen ApS｜長瀬産業株式会社｜株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング｜株式会社near｜豊島株式会社｜株式会社スタイリングライフ・ホールディングス｜Freewill, Inc. (Sustainable eco Society)｜ハーチ株式会社｜有限会社ミント｜ブレスワークジャパン｜株式会社エス・ティー・シー｜アステリア株式会社｜株式会社イワタ｜株式会社環境計画研究所｜アクサ損害保険株式会社｜アサヒペット株式会社｜株式会社アジョイア・ジャパン｜株式会社アーチ｜株式会社アンプラージュインターナショナル｜株式会社Xcountry｜株式会社NTTスマイルエナジー｜株式会社キゴコロ｜株式会社Q.E.D.パートナーズ｜株式会社クレコス｜株式会社デラックス｜PLCパートナーズ株式会社｜仏壇の神田｜フローレスブルー株式会社｜ベストセレクション株式会社｜株式会社大和屋｜株式会社和田植木｜菅谷 美咲｜高野 明彦｜山﨑 秀美｜

※本報告書に記載の法人・個人様の名称につきましては、敬称を省略させていただいております。何卒ご了承ください。

これからも「都市と森をつなぐ」をキーワードに活動を進めてまいります。

引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

法人概要　Corporate Profile

一般社団法人 more trees

151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-9-11 フレンシア外苑西 103
Tel　03 (5770) 3969
Fax　03 (5770) 3896
Mail　info@more-trees.org
URL　https://www.more-trees.org

事業内容

・国内外での森林保全（間伐／整備、植林など）
・森林に関するセミナー・イベント、森林を訪れるツアーの企画・開催
・国産材アイテムの企画・販売
・森林由来のカーボン・オフセットサービスの提供
・被災地支援活動
・その他、森林に関する事業全般

設立

2007 年 7 月 19 日

役員等

創立者　坂本龍一
理事　池田正昭　見城徹　石橋直樹
監事　山崎卓也

※本レポート内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください。

FSC マーク